

【地域包括支援センター】

地域包括支援センターが相談業務を行ううえで、必要な支援はどのようなものとお考えですか。

1	市民に対し、相談窓口を周知することや、任意後見制度の紹介等を行っていく必要がある。
2	若年認知症を特別視しない社会づくりを国全体で取り組んでもらえると活動しやすい。
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・病名を診断されただけでは何の解決にもならない。認知症センター等や専門医療機関につないで、本人・家族に適切な助言がもらえるよう相談日を増やしてほしい。</li> <li>・本人を支えるサービス事業所やスタッフに病気の理解や本人の置かれている状況を理解してもらい、対処してもらえるよう事業所へのサポートを充実してほしい。</li> <li>・保健所の相談にかけることでも助かっている。ただ継続して相談を受けてもらえないのが難点である。</li> </ul>
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本人、家族の思いを受け止める。</li> <li>・新しい資源の開拓と、現在の資源をしっかりと理解して、情報を提供する。</li> <li>・認知症に対する理解を地域の人に広めていく。</li> </ul>
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門医療機関への受診と、サービス利用機関の連携がスムーズにいくような支援。</li> <li>・必要に応じて関係者が連絡会議を開催できる仕組み。</li> <li>・常時相談に対応できる仕組み。</li> </ul>
8	進歩する医療情報の収集とその理解。相談援助技術のスキルアップ。相談窓口を設置していることのPR。各種関係機関とのネットワークの形成。
9	かかりつけ医と認知症疾患センターと地域包括支援センターとの連携システムが必要。
11	本人をとりまく地域、周囲の人たちの疾病理解に対する意識啓発と地域社会づくり。
12	家族へのサポート。地域の理解。
13	未医療者について、医療機関の紹介。適切な時期に介護保険申請につなぐ。適切な時期に介護保険内外のサービスにつなぐ。本人、家族の精神的フォロー。
14	適切なサービスの説明も重要だが、本人や家族の精神的な支援が特に必要と感じている。